

都史資料集成 II 第2巻 自治体東京都の出発

■目次

口絵・凡例・解説

第一 自治体東京都の行政 昭和二十二～二十五年度

コラム プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京

第二 昭和二十二年地方選挙結果

第三 特別区の発足

参考資料・庁議

■目次細目

第一 自治体東京都の行政 昭和二十二～二十五年度

一 都政概要(昭和二十二年版)

総説

都の行政

都の財政

事業及び施設

附録

二 都政運営上の重要懸案事項について(昭和二十二年十一月二十四日 建設局)

三 安井都知事の選挙に際しての公約(昭和二十四年三月 総務局調査課)

四 都政上における諸問題の処理状況(昭和二十四年三月 総務局調査課)

五 都政のあゆみ(一九五一年二月 東京都総務局文書課)

総説

財政

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 1 歳出攻勢のお台所—財源捻出なお見通難／2 地方財政の確立—新税ぞくぞく登場／3 税 一躍去年の二倍—都税—やく二倍 “しぼりと”の安井都政

教育

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 4 都の六三制足踏み—文部省に金なく断なく前進を阻む悪条件山積／5 苦悶する二部教授 葛飾区の場合／6 荒川名物の四部教授—尾久校も必至の状態—増築問題が目下の急務となる／7 寄附できぬ家の子学校に行けず／8 六私立中学揃って依託生をことわる—「足りるか」草山教育衛生部長談—何処え行く新制中学生／9 学校給食の諸問題／10 あなたは都民劇場を御存知ですか？／11 三月のナトコ映写機上映予定

社会福祉

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 12 家さへあれば一人前—ルンペンではない上野地下組／13 寒空に彷徨ふ浮浪者群に暖い正月を…—都の救済対策を見る／14 逃亡防止に施設を充実—都内の浮浪児五千八百／15 戦災孤児矢張り東京が全国—／16 学寮の整備完成／17 女性哀史—働く母と子供の家 和敬会母子寮の人々／18 東京都の新生活運動—経済文化等全面的展開／19 —三月の貯蓄目標二五〇億／20 婦人に指導権を—都の生活協組指導要領／21 模範的生活協同組合—砧協同組合を見る／22 寝蒲団も質ぐさ—配給品の買入れにもあえぐ—だんだん詰つて来る世相／23 失業者に朗報！—授産作業場開設—二月から都内十七ヶ所に／24 膨大な予算を使つて授産所の実績は上らない—考へさせられる今後の運営／25 民生食堂の誕生／26 大衆の声—浴場を快いものへ—電気風呂の場合／27 都下最初の都営公衆浴場誕生—地元民の熱意が実を結ぶ／28 お客は毎日八百人位—清潔で好評の区営鶴巻浴場／29 引揚援護対策拡充強化さる／30 復員者遺族未復員留守宅の皆様へ／31 声明—私達は斯くたかひ斯く合同した—戦争犠牲者遺族同盟—

労働

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 32 労組運動をマンガで見れば／33 都労委労働側委員決る—投票組合数は八九〇 投票率は七五・九パーセント／34 失業対策として—災跡地整理の現況／35 職業補導に

おける都の近況を視る／36 終戦の生んだ皮肉—都内の職業紹介の現状／37 男は工業が一位女は進駐軍へ—求人求職の実態／38 ◎都内に於ける寄場について—実地調査の概況—

公衆衛生

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 39 都内のネズミ退治運動展開／40 —主婦の方々え—衛生に就いて／41 皆さまの健康をお世話するこれからの保健所／42 杉並区の保健衛生／43 信仰と療養の闘病生活—杉並療養所を訪ねて—／44 尿尿汲取券制度にご協力を！

産業

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 45 東京都工業振興協議会／46 出品二万三千点—東京貿易館賑かに開館／47 商談成立約千五百—海を渡る日本品いよいよ好調—都で貿易再開記念準備／48 バイヤー続々と来朝—広い”ホテルテイト”も客故狭い—嘆く立花支配人／49 農革前線を行く(三)—東京都南村の巻—／50 都防空土地三十万坪開放—足立舎人地区年賦で／51 引揚者に重点—都の北海道開拓者募集／52 占領軍の見た食料の闇取引／53 エジプト米感謝の会—四日・東京都主催で開催／54 都の製パン実績—最高は依然伊藤製パン／55 そぼふる雨中の街頭主婦大会—スキヤ橋公園にて—／56 物価引下げ運動展開—千住商業振興会主催で／57 妊産婦用サランが手拭に化けて市場へ—ひも附配給の実現急げ／58 家庭の電力キキンどう切抜けるか—注目される三つの動き

三多摩産業振興計画とその進捗概況

島嶼産業振興計画とその進捗概況

建設

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 59 東京復興の現況—都建設局のプラン—道路と広場に重点／60 東京都心商店街と主要駅前交通量—都市計画課で調査／61 東京都の緑地計画—生活を美化と膨脹の抑制／62 国土復旧は焦眉の急—都建設局本年度計画／63 貿易態制へ—東京港修築五ヶ年計画—予算は約三十億／64 東京港完成を要望—貿易再開を機として／65 ギンザハチヨウ・マチノニギワヒー—統計からみた露店もでるのろじ2／66 築地街商親睦会臨時総会

住宅

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 67 都の住宅対策—万難排し続行／68 都の住宅地もめる 北区の農作地／69 都営住宅本年度の計画—万戸—望みは復興金庫／70 惨憺たる家地獄実相／71 六階建豪華アパート—都が本年中に完成／72 一万円で家が立つ—大ハルピン街異変／73 洋風住宅クジビキで貸します—戸山が原に—大住宅街生る／74 やれ嬉しやと思つたが—文化住宅の悲哀—名前だけはハイカラ「戸山ハイツ」／75 余裕住宅の貸付のお願い

上下水道

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 76 戦災後の都水道漏水見事三割に食止む—不断努力を続ける小林係長／77 東京都内の下水大改良計画—特別委員の現地視察等検討を開始／78 簡易水洗便所のお奨め

交通

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 79 帝都復興に—役担ふ都電とバス—年内に塗装工作も完成か／80 近く都電の新造車—六月迄に二〇台お目見得／81 電気バスお目見得／82 連結バス八月完成—一日卅五万の輸送目標／83 どうするバス乗入問題—「寝耳に水」では済まされぬ／84 東武都バス東京駅乗入—さながら買出バス

警察

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 85 新警察制度—一年経つた反省—検討要する内容と実績／86 何とか救う道はないか—犯罪の温床となる社会生活の地下層

消防

* プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京 87 流石我国第一を誇る東京消防庁消防施設—消防職員七三二七名消防自動車四三七台／88 戦后最大の火災防止運動—十月十七日より東京消防庁で実施／89 [キティ台風被災地への広報1]／90 [キティ台風被災地への広報2]

区と市町村の概況

むすび

附表

六一地方自治法の実施に伴う職制改正

- 一 地方自治法の実施に伴う職制改正要綱(案) 昭和二十二年
- 二 総務部職制要綱 昭和二十二年
- 三 監査課設置要綱 昭和二十二年
- 四 臨時調査部 昭和二十二年
- 五 教育局職制改正案 昭和二十二年六月三十日
- 六 文化局試案 昭和二十二年
- 七 建設局機構改革案 昭和二十二年
- 八 新設課係一覧表 昭和二十二年

第二 昭和二十二年地方選挙結果

- 一一東京都知事選挙調 (昭和二十二年四月五日執行 抄録)
- 一二東京都議会議員選挙調 (昭和二十二年四月三十日執行 抄録)
- 一三一区長選挙調 (昭和二十二年四月五日執行 抄録)
- 一四一区会議員選挙調 (昭和二十二年四月三十日執行 抄録)
- 一五一市町村長選挙調 (昭和二十二年四月五日執行 抄録)

第三 特別区の発足

一一区域の整理

- 一 区域整理委員会経過報告 昭和二十一年十二月
- 二 区域整理問題参考資料配布 昭和二十一年十月九日
- 三 輿論に表はれた区域整理 昭和二十一年十月一日
- 四 東京都職員組合の区整理対策方針 昭和二十一年十一月十五日
- 五 区域整理統合に関する東京神奈川軍政部東京分遣隊への報告 昭和二十一年十月二十四日
- 六 区域整理諸案
 - ア 区統合案 二〇区
 - イ 二一区案

一二二十二区制の実施

- 一 区の廃止及び設置に関する東京都告示 昭和二十二年三月五日
- 二 区の整理統合に関する東京都告諭 昭和二十二年三月十日
- 三 新二十二区制の実施期日について 昭和二十二年三月六日

一三文京区役所庁舎に関する決議

- 一 小石川区会決議 昭和二十二年三月十一日
- 二 本郷区会決議 昭和二十二年三月十二日

一四一区役所・支所の位置告示

- 一 区役所名称位置制定告示 昭和二十二年三月十五日
- 二 区役所支所名称位置等制定告示 昭和二十二年三月十五日

一五一区役所通則設定

- 一 東京都区役所通則 昭和二十二年三月十五日
- 二 区長室を置く区役所指定 昭和二十二年三月十五日
- 三 東京都区役所通則設定に関する依命通牒 昭和二十二年三月十五日

一六一練馬区の分立

- 一 板橋区役所練馬支所管轄区域の区分離新設について 昭和二十二年三月十一日
- 二 練馬区設置告示 昭和二十二年七月三十一日

参考資料・庁議

- 一 庁議及び審議員に関する規程案

二 東京都庁議要綱 昭和二十四年十二月五日

三 庁議とは？

四 庁議一覧(安井誠一郎知事第一期)